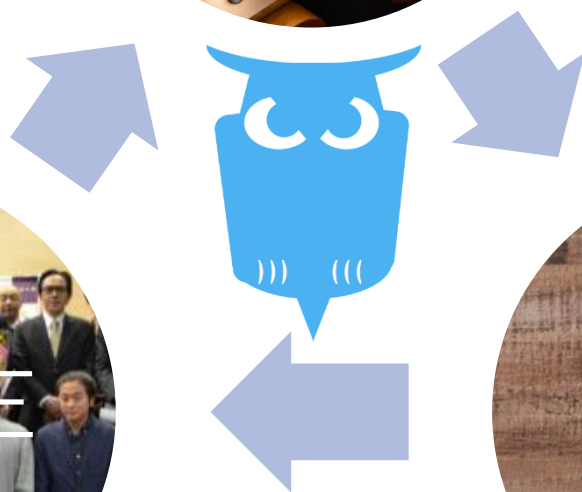


# 平成29年度 学生が選ぶベスト・ティーチング賞



2018年3月 駒澤大学 FD推進委員会



# 「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」

### ➤ 目的

学生から見て効果的な教育方法を実践する教員を表象し、その教育方法を全学的に共有することで、大学全体の教育の質を向上させる。

➤ 実施期間 : 2017年11月6日(月)～25日(土)

➤ 投票対象者 : 駒澤大学の全学部生(15,437名)

➤ 投票対象科目 : 2017年度に開講された全ての科目

➤ 投票方法 : C-Learning上の投票専用ページ  
※学生は、当該年度に履修した「科目」一つのみ投票が可能

➤ 投票総数 : 1,084票(うち有効票:1,021票)

➤ 集計方法 : 各「科目」の得票数を単純合計  
※今年度の履修状況が確認できない場合(過去の履修)や、投票理由の無記入、担当教員が特定できないもの、誹謗中傷、その他企画の趣旨に沿わない投票は無効票扱いとした。  
※同一科目名で開講時限が違うものについては、科目名及び担当教員が同じ科目群を1科目として合算している。

受賞No.1



# 刑法総論

法学部 法律学科 講師  
富樫 景子 先生

## Q.受賞の感想はいかがですか？

「例年と同じように授業をしていたつもりでしたが、今回突然受賞とお聞きし驚きました。学生からの期待を感じ、身が引き締まる思いです。」

## Q.講義に学生を引き込むために行っていることはありますか？

「法律の勉強は言葉が難しく、理解する前に嫌になってしまう人が多いため、授業の初めに専門用語は全て説明して、細かい部分は各自に教科書で確認させることで興味を持たせています。法律の話は抽象的なことが多いので、学んだことがその場で使えることを体験させるようにしています。」

## Q.授賞式の際の「学生と共に授業を作る」という意味は？

「刑法総論が通年の講義なので、数年前から個人で授業アンケートを前期末に行い、その年の学生さんのニーズに合わせた授業を後期から行うようにしています。また、ゼミ生などにも個人的に話を聞き、授業に反映しています。」



## 学生からの投票コメント

教科書の判例よりも分かりやすく、学生が理解しやすいような身近な事例に例えて説明している。ユーモアを交え、正確に授業を行ってくださっているのので、授業中の私語や居眠りが少ない。

毎年の授業アンケートの結果を取り入れ、みんなのニーズに合った授業が進められている。

レジュメが分かりやすい。小テストが休み明けにあるのが良い

※コメントは、抜粋・整理したものです



# 経営戦略論

経営学部 経営学科 教授  
中村 公一 先生

## Q.受賞の感想はいかがですか？

「自分のやっていることは間違っていないなと感じました。知識を得ることだけであれば本を読むだけで可能です。いかに学生に興味を持ってもらい自分の勉強につなげてもらうかが大切だと思っています。」

## Q.講義に学生を引きつけるために行っていることはありますか？

「難しい言葉を使わないようにしています。実際の企業や漫画などの事例を出し、高度な内容を分かりやすく伝えることで学生に“気づき”を与えられるようにしています。」

## Q.この講義の魅力とはなんですか？



「現実で起きていることをテーマに講義を行うので、勉強することで、その事象をいろいろな方向から理解することが出来ます。物事の仕組みや裏側を理解することに面白さがあります。」

## 学生からの投票コメント

学生に対して紳士的。レジュメや説明の中で、皆に分かりやすいアニメなどの例えが用いられるなど、工夫がなされている。授業に熱心であるが、押しつけがなく良い。

漫画やアイドルグループなどに例えるので理解しやすく、経営戦略論を身近に感じることが出来る。

学生が理解しやすいように考えられた授業構成になっている。

受賞No.3



# 経済学入門a

経済学部 経済学科 教授  
矢野 浩一 先生

## Q.受賞の感想はいかがですか？

「素直に嬉しいです。10年前に経済学入門を始めた頃は、あまり評判が良くありませんでした。年々改善することで良いものになってきたと思います。」

## Q.講義に学生を引き込むために行っていることはありますか？

「経済学部なので経済の最近の出来事を授業に取り入れるようにしています。人気の商品を具体例に出し、需要と供給の説明をすることで学生が理解しやすいようにしています。」

## Q.学生に望むことはありますか？

「自然体で授業を受けてもらえればそれで充分です。まずは授業を受けて経済の面白さに気付いてください。日常の様々なものが経済に関係しています。私はこの授業が好きだからこの授業をしています。面白いと思える瞬間を皆さんにも知ってもらいたいです。経済学は楽しいですよ。」



## 学生からの投票コメント

パワーポイントを使った授業で、前日にはデータを配布してくれるので予習復習がしやすい。授業を受ける側の立場に立った授業が展開されていて非常に分かりやすかった。

学生が静かに受けやすい環境作りをしてくれている。また、集中力が保てるように小休止を入れるなど、メリハリのある授業。

この授業をきっかけに経済学をより勉強したいと思いました。

※コメントは、抜粋・整理したものです

受賞No.4



# 英語 I ab

総合教育研究部外国語第一部門 助授  
フレンチ ナサニエル S 先生

## Q.受賞の感想はいかがですか？

「とても幸せです。受け持っている授業の学生の人数が少ないので、受賞することは難しいと思っていました。投票してくれた学生に感謝です。」

## Q.講義に学生を引き込むために行っていることはありますか？

「クラスをチームの様に教えることです。インタビューテストというものを行っていますが、このテストは落ちてしまっても授業前に何度でも再試験を行うことができます。皆で課題をクリアさせることでクラスにチーム感を生み出します。また学生たちに自分が上達していることを分からせることで授業に引き込みます。」

## Q.学生に望むことはありますか？

「どんな学生が来ても楽しませるので要望はありません。英語を学びたい学生は英語のドラマを見ると良いです。私もアニメをみて日本語を学びました。」



## 学生からの投票コメント

段階的に難しい課題にチャレンジするプロセスが確立されている。実際に、自分にできるわけがないと思っていた英語でのフリートークが確実に上達しているのを感じている。

リアルな英語の発音を教えてくれたり、学生に積極的に会話させたり、タイムトライアルを行ったりといった様に、常に飽きさせない工夫をしてくれている。

マンツーマンでの会話が英語力向上に効果的だと実感した。

※コメントは、抜粋・整理したものです

## 入賞科目

### 中国仏教史

仏教学部仏教学科 教授

吉村誠 先生

#### 学生からのコメント

- ◆ 授業毎に今日やる内容を明示し、映像資料を効率的に使うためテンポが良い。
- ◆ 講義内容が理路整然としており、内容も充実している。

### 現代社会と宗教B

総合教育研究部文化学部門 非常勤講師

加藤之晴 先生

#### 学生からのコメント

- ◆ 型にはまらない授業。今期だけの伝説の講義ということで、本当に受けてよかったと思えるものだった。
- ◆ パワーポイントが非常に見やすい。

### キャリアを考えるII

総合教育研究部日本文化部門 非常勤講師

平野厚雄 先生

#### 学生からのコメント

- ◆ 社会で生きていくために必要な力がよく分かり、その力が身につく。
- ◆ 他学生との交流が多く、自分の人間的成長を感じることが出来る。

### 生涯スポーツ実習

総合教育研究部スポーツ・健康科学部門講師

出井章雅 先生

#### 学生からのコメント

- ◆ 学生との距離が近く、いつも明るく面白いので、雰囲気の良い授業。
- ◆ 学生にスポーツの楽しさを伝え、やり方などを段階的に指導しているので分かりやすく、行くのが楽しみになる授業です。

### 英語演習

文学部英米学科 准教授

川崎浩太郎 先生

#### 学生からのコメント

- ◆ 授業が毎回面白く、分かりやすい。レベルに合わせた授業展開だと思った。
- ◆ 英語をアクティブに使う機会があり、親身になってアドバイスをくれる。

### 都市地理学B

文学部地理学科 教授

橋詰直道 先生

#### 学生からのコメント

- ◆ 身近な事例を挙げることによって非常に分かりやすく理解することが出来た。
- ◆ 授業の話が面白く、言葉の説明がイメージを持ちやすい。

### 外国史各説VIII

文学部歴史学科 非常勤講師

長谷部圭彦 先生

#### 学生からのコメント

- ◆ 難しい専門用語や、社会の構造をかみ砕いて説明しており、図や表を効果的に用いて授業を行っている。
- ◆ 授業の初めに前回の質問に答えてくれる。

### 臨床心理学

文学部心理学科 教授

八巻秀 先生

#### 学生からのコメント

- ◆ 毎回学生からの質問に対応してくれるため非常に分かりやすく、お話もためになるものばかりである。
- ◆ プリントがとにかく分かりやすい。

### 映像コンテンツ各論

GMS学部GM学科 非常勤講師

加藤卓哉 先生

#### 学生からのコメント

- ◆ 実際に映画を見ながら撮影方法等の内容を分かりやすく学ぶことが出来た。
- ◆ 授業内容の説明に適切な図や映像を紹介してもらえるのでイメージが理解しやすい。

投票へのご協力、  
ありがとうございました！

※入賞科目は投票数、票率、所属学部等を総合的に考慮し決定しました。  
※コメントは、抜粋・整理したものです





## 学生FDスタッフとは

体育会でも、サークルでもない大学直属の学生機関です。  
 学生による学生目線の教育改善を目指して、各学部生や多彩な教職員とともに  
 ベスト・ティーチング・アワードなどのイベント企画、広報、運営を行います。

## 活動内容

- 6月 学生FDスタッフ募集
- 7月 学生FDスタッフ結成
- 8月 BTAの広報準備
- 11月 授業アンケート・BTA広報
- 12月 BTA選考、授賞式

## 担当教職員

- |          |       |
|----------|-------|
| 総合教育研究部  | 西村祐子  |
| GMS学部    | 杉森建太郎 |
| 文学部社会学科  | 川上富雄  |
| 仏教学部     | 岩永正晴  |
| 法学部      | 塩入みほも |
| 総合教育学部   | 岩本哲也  |
| 教務部教育支援係 | 丸山哲也  |
| 教務部教育支援係 | 指理恵   |
| 教務部教育支援係 | 板橋幸子  |
| 教務部教育支援係 | 松井誠裕  |

## 2017 学生FDスタッフ メンバー



**一瀬航哉 GMS学部 3年**  
 FDスタッフのリーダーとして、他学部他学部の方々と関わる機会が多く、自分の成長につながる経験ができました。来年度のスタッフも頑張ってください。



**仁藤光一 法学部 3年**  
 教員や職員の方々と意見交換をするなど、貴重な体験をすることが出来ました。



**大町光司 GMS学部 3年**  
 今回、FDプロジェクトに参加する事で教授の方々、学生の方々の意見を知ることが出来て、とても有意義な活動でした！



**古橋広貴 法学部 3年**  
 学生と教職員の架け橋となるこの活動を通して、多角的視点を養い、実のある経験ができました。



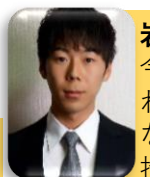
**村上瑛寛 経営学部 3年**  
 学生の視点から教育を考えたり、職員との意見交換など普段はできないことがこのFDスタッフでできました。



**藤川未来 GMS学部 2年**  
 学生の思いと教授の思いを共有することができる貴重な場でした。これからも、FDの活動をもっとたくさんの方に知ってほしいです。



**遠藤裕子 GMS学部 3年**  
 色々な学部の先生方と交流のできる貴重な体験でした。



**岩淵源 GMS学部 3年**  
 今回学生FDスタッフという立場を任せられ、去年に引き続きまだまだ知られていないBTAをどうやったら知ってもらい、投票して頂けるのか。とてもやりがいのある仕事でした。



**永友健斗 法学部 4年**  
 良い講義とは何なのかを考える良い機会となりました。



**齋藤雅樹 法学部 2年**  
 普段関わることのできない大学内の仕事に携われる貴重な経験をする事ができ、これからの自身の学習に活かしていきたいです。



FDスタッフの皆さまお疲れ様でした！興味のある方は来年度の活動に是非ご参加ください！

他 片山祐太 文学部3年

### 平成29年度 学生が選ぶベスト・ティーチング賞について

駒澤大学FD推進委員会  
駒澤大学FD推進委員会小委員会

去る平成29年12月22日（金）、中央講堂において、第2回「学生が選ぶベスト・ティーチング賞（以下、BTA:Best Teaching Award）」の授賞式が行われた。BTAの趣旨は、学生が運営し学生の投票によって受講者側からの評価を明らかにし、授業を行う教員を励まし、より良い授業の方法等を全学的に共有するところにある。学生が運営し受講学生が評価するから「学生が選ぶ」という語が冠せられ、教員個人の人気投票ではなく、あくまで良き授業の評価であるから「Teacher」ではなく「Teaching」という語が選ばれている。

今年度のBTAは、後期の「学生による授業アンケート」にあわせC-Learningを用いて11月6日から25日に投票が行われ、投票結果に基づく学生FDスタッフによる選考、およびFD推進委員会の了承のもと、4講義が選ばれた。

受賞者には、FD推進委員会委員長である学長の長谷部八朗先生から表彰状が授与され、学生FDスタッフから花束が贈呈された。中村公一先生は昨年度の第1回BTAに続く連続の受賞であり、フレンチ・ナサニエル先生の受賞は、履修者が100名を下回る小規模な授業としては初のものとなった。

受賞者の4名の先生方には、平成30年2月1日（木）駒澤大学FD研修会において、その教育方法についてご講演をいただき、その取組みを共有していただいた。出席した教員からも多数の質問があり、双方向的な研修会となった。

4名の受賞者の共通点として感じられたのは、「教員自身が楽しみながら授業を行っていて、学生にもその楽しさが伝わるように、常に創意工夫をしている」という点である。

一方で、課題として示唆されたのは、授業内容に興味をもった学生達を、その次のステップである自発的学習者へと導いていくことの難しさであった。「どのような授業が、学生達を自発的学習に導くことができるか」という課題は、科目を問わず、今後もFDの重要な課題でありつづけるのではないかと。

なお、今後のBTAの課題としては、社会科学分野や今回受賞した語学分野のみならず、人文科学や自然科学分野、あるいはスポーツ健康分野など、幅広い分野からすぐれた授業をいかに顕彰するかということである。次年度以降、そのための選考方法が検討されるべきであろう。



